

福山さん大健闘

市民と共同
16万票超

2日投開票の京都市長選で、福山和人候補は16万1618票(34.6%)を獲得し、現職市長を相手に大健闘しましたが及びませんでした。当選は現職・門川大作氏(210,640票45.1%)。

元市議の村山祥栄氏は94,859票(20.3%)。結果について京都府委員会の声明や一般紙の報道などを紹介します。

■最善のたたかい 小池書記局長の会見(3日)「福山和人さんという最良、最高の候補者を擁立し、政策づくりでも、幅広い市民との共同という点でも最善のたたかいができた」と改めて確信を持っている」

■論戦 京都府委員会の声明(3日)より

・「暮らし応援すぐやるパッケージ」は、市民の切実な暮らしの願いとかみ合せて大きな関心を呼び『新幹線より、返さなくてもよい奨学金を。温かい中学校給食を』の訴えは、支持を広げる大きな力になった

・「すぐやるパッケージは市予算の1%未満でできる」「ないのはお金でなく、市長のやる気」と財源を示し、市長の政治姿勢を問う論戦に果敢に挑戦。現職は「福山公約には200億円足りない」と言ったが、最後までその根拠を明らかにできないまま論戦を回避。

・政策論争を避けた現職の対応で有権者に判断材料が提供されず、反共と締め付けに終始したことは約6割の有権者が棄権した一つの要因になった。

■反共攻撃と反撃 京都府委員会の声明より

・福山陣営の猛追に焦った現職陣営が、選挙戦中盤に「大切な京都に共産党の市長は『NO』と大書した反共広告を新聞各紙に掲載した。これには、直ちに全国から「選挙以前の民主主義への攻撃」「排除の論理が恐ろしい」「現職としては情けない」などと反撃が広がって、現職支持母体代表が謝罪表明する事態になった。

・「時代遅れの攻撃が全国的な市民の良識で包囲されたことはきわめて重要」「『共産党を除く政治の壁』が崩れていることの証明」「市民と野党の共闘の発展にこそ希望ある政治を生み出す力があることを示すものとなった」

■福山氏の得票結果

- ・951票差だった08年市長選(今回と同じ構図)得票を上回る(+4097)。左京区ではトップ
- ・無党派層では1位(38.7%)。立憲民主支持層も1位(45.4%) 社民支持層は100%。無党派層の門川氏支持は26.4%で3候補の中で最低=京都新聞出口
- ・18、19歳は5割近く=「京都」出口、KBSは「福山が圧倒」
- ・30代は最も高い支持=NHK、3割超=「京都」
- ・「子育て・教育」を争点として重視した有権者の5割が福山=「京都」

■一般紙の報道

・門川氏について「福山、村山氏に投じられた票数の重みを考えれば、広範な課題について、門川氏の政策が全面的に支持されたとは言えない」(毎日)

・「与野党相乗り」について「国政で激突する与野党が門川氏推薦で共闘したことに、疑問を感じた有権者は少なくないだろう」「有権者に十分な説明ができていたか、なぜ選択肢を示せなかったかを、各党は問い直す必要がある」(京都)社説



20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

京都市長選特集【府県・地区・地方議員御中】

No. 10(2020.2.5)